



Annual Report 2024

2024年度 事業報告書



とちぎYMCA

メッセージ

Message from The Tochigi YMCA



代表理事 岡田 孝司

Takashi Okada



総主事 塩澤 達俊

Tatsutoshi Shiozawa



みなさん、こんにちは とちぎYMCAです。

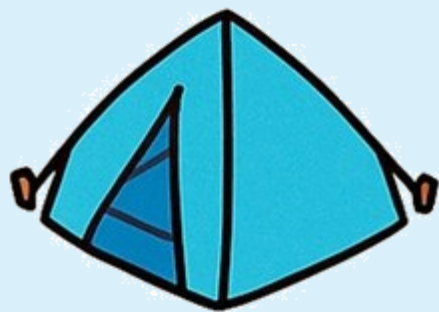
どなたにも開かれていて、必要な時にどなたでもご利用いただける共生の場と、支えられ—支えるの支え合い循環型社会の創出に全精力を傾けたい！

わたしたちのYMCAが、今日もボランティアの皆さんをはじめ、ご賛同をいただいているサポーターの方々、長年にわたってご支援をいただいている会員の方々、ご利用者の方々など、あらゆる世代のあらゆる方々とともに歩ませていただいている理由はこれです。

わたしたちのYMCAは年齢、性別、国籍、その他あらゆる属性を問わず、あらゆる方々に開かれ、共に歩むYMCAとして2024年度も歩ませていただけました。

みなさまに、心より御礼申し上げます、2024年度の活動をご報告申し上げます。

これまでの歩み



・学校法人宇都宮 YMCA 学園
さくらんぼ幼稚園設立認可



・足利 YMCA 設立



・特別養護老人ホーム開設

1978



1981



・宇都宮 YMCA 設立
(4月5日)

1988

- ・足利 YMCA 国際青少年
センター完成
- ・財団法人とちぎ YMCA に
名称変更

1993

1997

- ・那須 YMCA 設立
- ・宇都宮東 YMCA 設立

・公益財団法人へ移行

2006

- ・足利 YMCA、指定管理者と
して勤労青少年ホーム受託



2010

- ・宇都宮 YMCA、指定管理者として
宇都宮市青少年活動センター・
トライ東 受託

2012



・ようとう保育園開園

2014

2017



・さくらんぼ幼稚園
認定子ども園化

2021



- ・指定管理「宇都宮市子どもの家
Cブロック」学校法人で取得
- ・指定管理「宇都宮市子どもの家
Gブロック」社会福祉法人で取得

2024



・「宇都宮東 YMCA」移転
「YMCA EAST」に名称変更

2025



- ・公益財団法人で指定管理者として
「宇都宮市まちづくりセンター」受託

**Slogan** スローガン

みつかる、
つながる、
よくなっていく。

YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、青少年の心豊かな成長を願って創られました。今では120の国と地域に拡がり、約6500万人が活動する世界最大規模の非営利団体となっています。

日本では1880年（明治13年）に東京で設立され、現在は34の「都市YMCA」と37の「学生YMCA」で、約14万人が活動しています。「みつかる。つながる。よくなっていく。」をブランドスローガンとして、専門学校、語学、ウエルネス・健康教育、キャンプ、保育・子育て支援、国際活動など、幅広く事業展開しています。

「栃木の地にもYMCAを！」という声の中、1978年、譲渡を受けた「さくらんぼ幼稚園」からとちぎYMCAがスタートしました。同時に設立当初から取り組んでいたのが、英会話クラスや国際交流であり、ユースボランティアリーダーと共に野外活動やチャレンジ活動を実施しました。1993年には日本のYMCA初となる特別養護老人ホーム「マイホームきよはら」を開設し、幅広い年齢層で展開しています。

「マルチジェネレーション活動団体」であり、0歳からシニアの方まであらゆる世代が対象です。活動は多岐にわたり、相互に重なり、関係し合い成り立っています。



Activity Areas

私たちの実践していること

1

子どもたちと
若者の成長に寄り添う

健康・教育プログラム

体育、サッカー、水泳、新体操、ジャズバレエなどを用意しています。その年代の発達段階や対象に合わせた指導で「運動が好きになる」ことを目指します。



野外活動・教育キャンプ

グループワークや体験学習で成長する場として、夏・冬・春の長期休みにさまざまな場所でキャンプや日帰りプログラムを行っています。



語学教育

英語によるコミュニケーション力を養成します。多様性を受け入れること、主体性を大切にした教育を実践します。未就園児から成人まで対象



国際教育

世界中のネットワークを生かした国際交流や異なる文化や習慣、宗教、社会問題などを知り、平和な社会を担う一員となることを目指します。



保育園・幼稚園・こども園

キリスト教保育の理念に基づき、一人ひとりの子どもが愛されていると感じ、関わる全ての人々が尊重し合い共に学び成長していく保育教育をカリキュラムマネジメントします。



学童・放課後

子どもたちの成長と共に喜び合いながら、地域の人々と連携して活動しています。未来を担う子どもたちを育てることが目的です。



ボランティア

地域の諸団体や企業などと連携し、子どもから高齢者まで幅広いボランティアが多様な領域で活動しています。



発達支援

楽しく学び友達との交流の場を広げながら、社会生活でもっとも大切なコミュニケーション能力や学習能力の習得を目指します。



居場所

地域の方々とのつながりを大切にしながら、だれもが安心して安全に過ごせる居場所作りを目指しています。



宇都宮市青少年活動センター「トライ東」

バスケットボールやバレーボールなどの各種スポーツや、セミナー・文化活動を通じて、若者が多様な価値観に触れて、学び合うことのできる環境の創造を目指します。

Activity Areas 私たちの実践していること

高齢者のより良い生活に 寄り添う



高齢者支援

行政機関や地域と連携を図り、特別養護老人ホーム、デイサービス、訪問介護、地域包括支援センター等を展開しています。一人ひとりが輝いて生きるために、暮らしのあり方を模索しながら、高齢者の支援事業を行っています。

Society



Human Rights



社会課題の解決



宇都宮市まちづくりセンター「まちびあ」

市民による「まちづくり活動」の活性化のため、ボランティア団体・NPO法人といった市民活動団体の連携促進や組織基盤強化などを行うまちづくり活動の拠点施設を管理運営しています。

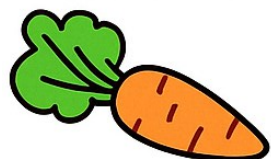


社会貢献

広く社会問題を解決するために、災害支援やいじめ問題を考えるムーブメントづくり、チャリティイベントなどを行っています。世界ネットワークと多様な活動領域を活動の基盤として、社会貢献の力を広げます。

YMCAの全人的成長プログラム

YMCA's Holistic Education Programs in Japan



YMCA伴走サポート

		幼児	小学生	中高生	学生	社会人
活動目的	日常生活	1 子どもの成長に寄り添う 子育てと子育て チャイルドケア	2 若者の力を信じる ユースエンパワーメント アフタースクール		3 健やかな生活を支える 生活クオリティの向上 自立 就学・就労支援	高齢者支援
	学びと習得	インターナショナルスクール	フリースクール・進学指導	高校生事業	専門学校	文化教室
	身体形成	幼児・小学生英語	英語・テクノロジーによる課題解決プログラム			成人英語
	身体的形成	幼児・小学生ウエルネス	中高生ウエルネス		成人ウエルネス	
	総合的な実践	幼児・小学生野外 / キャンプ	中高生野外 / キャンプ			
	課題の解決と献身	地域コミュニティ活動（国内・海外）				
		4 社会貢献の地域基盤となる 社会に貢献		ジュニアリーダー活動	リーダー活動・学生YMCA	会員活動・ボランティア

メッセージ

YMCAについて

運営方針

事業報告

組織体制

役員・委員

2024年度 とちぎYMCA運営方針 policy for 2024



とちぎYMCA年間聖句

善きサマリア人のたとえ

「行って、あなたも同じようにしなさい。」

(ルカによる福音書10章30節～37節)

活動報告

Activity Report / Community Service

地域活動・ボランティア活動 01

YMCAインターナショナル・チャリティーラン
YMCA International Charity Run

台風の影響により、第19回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2024は中止となりました。

代替として「ユニバーサル・チャレンジ・フェスタ」を開催し、乳幼児から高齢者まで多くの方が参加しました。

障がいの有無を超えてダンスやゲームを楽しみ、笑顔あふれる交流の場となりました。収益金は、障がい児者の活動や招待キャンプ「富士山キャンプ」に活用しました。

ピンクシャツデー
Pink Shirt Day

カナダで始まった「ピンクシャツデー」は、いじめに反対し、連帯の思いを表す取り組みです。とちぎYMCAでは、ユースのリーダートレーニングをはじめ、幼稚園・保育園・青少年施設などで活動を展開しました。

約500名が参加し、いじめや差別を自分ごととして考える機会となりました。

今後は、ピンク色に染まる活動から、一人ひとりの個性を尊重する運動へと広がっていきます。

子どもの貧困撃退 サンタDEラン
Santa De Run

「子どもの貧困撃退チャリティー♡サンタdeラン&クリーン」では、YMCAユースが実行委員として活躍しました。

高校生・大学生が中心となり、企画や広報を担当。8月から準備を重ね、当日は52名が参加しました。

県内のNPOやボランティアと連携し、若者の力で子どもの貧困解決に向けた活動を広げました。

この取り組みを通じて、YMCA運動の輪が地域全体に広がっています。

活動報告

Activity Report / Community Service

地域活動・ボランティア活動 02

高校生ボランティアグループ「つぼみ」

high school volunteer group "Tsubomi"

「子どもに関わりたい」「地域に貢献したい」という思いを持つ高校生が集まり、子ども食堂や地域イベントに取り組んでいます。

〈つぼみ〉は2024年度で5年目。年間7回の「つぼみ食堂」を開催し、延べ329名に食事を提供しました。

地域に根づき、かつての利用者が高校生となり運営に参加する例も見られます。

活動は地域づくりだけでなく、高校生自身の成長の場でもあり、毎週の会議で自ら企画・運営を行っています。

卒業生からは「仲間の温かさに支えられ、自信を取り戻せた」「YMCAは自分らしくいられる居場所だった」との声が寄せられました。



「やりたいボランティアを『今』やろう！」

ボランティアをやりたいけれど、いつどこでやればいいのか？
小さい子どもから、高齢者まで幅広い世代と交流ができる！
高校生の夏休み、この夏がボランティアをする絶好のチャンス！！

高校生ボランティアスクール

volunteer school for high school students

1983年に始まった「高校生ボランティアスクール」は、今年で62回目を迎えました。

夏休み期間中に行う短期型プログラムで、高校生が福祉・保育・教育などの現場でボランティアを体験します。

コロナ禍で体験の機会を失った高校生75名が参加し、16種類の活動の中から希望する分野を選びました。

初めての参加者も、子どもや利用者に関わる中で多くを学び、笑顔や成長が見られました。

今後は活動拠点を広げ、県内の高校生の「やってみたい！」に寄り添い、未来への気づきを育む場として発展を目指します。

事業報告

Business Report

公益財団法人

健康教育事業

Wellness Program

YMCAのウェルネスプログラムは、「できた!」という小さな達成の積み重ねを大切にする教育活動です。

2024年度は、特に「新体操」や「ジャズバレエ」などへの参加が増え、友だちを誘って参加するメンバーも多く見られました。

共に取り組む活動を通じて、子どもたちに協調性や責任感が育まれ、準備や片付けにも自主的に関わる姿が見られました。

YMCAは、メンバー・リーダー・職員・保護者・地域の皆さまと共に、「ポジティブネットのある豊かな社会」の実現を目指していきます。



野外教育事業

Outdoor Education Program

2024年度は、ユースボランティアリーダーの活躍がプログラムの価値を高めました。一方で、雪不足により冬季キャンプが実施できず、自然環境の変化を実感する一年でもありました。

こうした変化の中でも、自然を通じて人と出会い、気づきを得る体験の場づくりを大切にしています。

野外教育の目的は、①子どもたちに自然体験を通して生きる力と責任感を育むこと、②ユースと子どもが互いに学び合う場を提供することです。

今後も、心に残る「感動体験」を通して成長を支える活動を続けていきます。



YMCAのキャンプは、「為すことによって学ぶ(Learning by doing)」を理念とする野外教育活動です。

子どもの興味や自発性を大切にし、主体的な体験を通して学びを深めます。

自然の中で仲間と活動することで、人との関わりや社会への関心を育みます。

YMCAは、安全で安心できる環境のもと、自然や他者とのつながりを通じて、子ども一人ひとりの成長を支えています。

事業報告

Business Report

公益財団法人

国際教育事業

International Education Program

宇都宮市の「共生の居場所ライトリンク補助金事業」として、多文化子育てサロン「Minnaのいばしょ」を開設しました。

外国人の子育て世代が地域の一員として交流できる場づくりを進めています。

また、東YMCAが陽東に移転し「YMCA EAST」として再スタート。

生徒の満足度を維持しつつ、新規受講者の拡大に力を入れています。

国際理解を深める取り組みとして、「難民に関するワークショップ」「アメリカ人と考える災害対策」「災害時の共助」をテーマに学びの場を開催しました。



チャレンジド事業

Challenged Program

青年期グループ「アイスファイヤー」では、調理・外出・ボウリング・カラオケ・チャリティーラン・クリスマス会など多彩な活動を実施しました。

調理では手際が向上し、健康に配慮したメニューにも挑戦。

LRT乗車や福祉バスでの外出、農業体験やポッチャなどにも積極的に取り組みました。

チャリティーランでは、走る以外の参加方法を設けることで、全員が関われる形に工夫しました。

メンバー一人ひとりの思いを尊重し、寄り添いながら活動を続けています。

事業報告

Business Report

公益財団法人

支援事業

(アフタースクール：ひがしやまアトムクラブ)

After School of Higashiyama at Ashikaga

老朽化が課題だった施設に、地域の協力により新しい建物を確保し、2024年11月から移転しました。安全で快適な環境づくりに努め、限られた空間を学習・読書・遊び・運動などのゾーンに分けて活用しています。

スタッフは各種研修に積極的に参加し、知識と支援力を高めました。また、公認心理士を中心にケーススタディを実施し、子どもへの理解とスタッフ間の連携を深めました。

今後も安心して過ごせる放課後の居場所づくりを進めていきます。



指定管理事業

(宇都宮市青少年活動センター・トライ東)

designated management of TRY EAST

2024年度は「知ってもらう・来てもらう・自分の居場所になる」をテーマに運営しました。当初は職員不足がありましたが、体制を整え安定した運営へと進化しました。

利用者数は増加しましたが、セミナーなどへの参加は減少傾向にあり、オンラインの普及によりリアルな体験の価値を伝える広報強化が課題です。

また、社会の変化に合わせたルールや環境整備も求められています。

2025年度は指定管理15年目を迎え、これまでの経験を活かし、誰もが利用しやすい青少年センターを目指します。

事業報告

Business Report

公益財団法人 決算状況報告

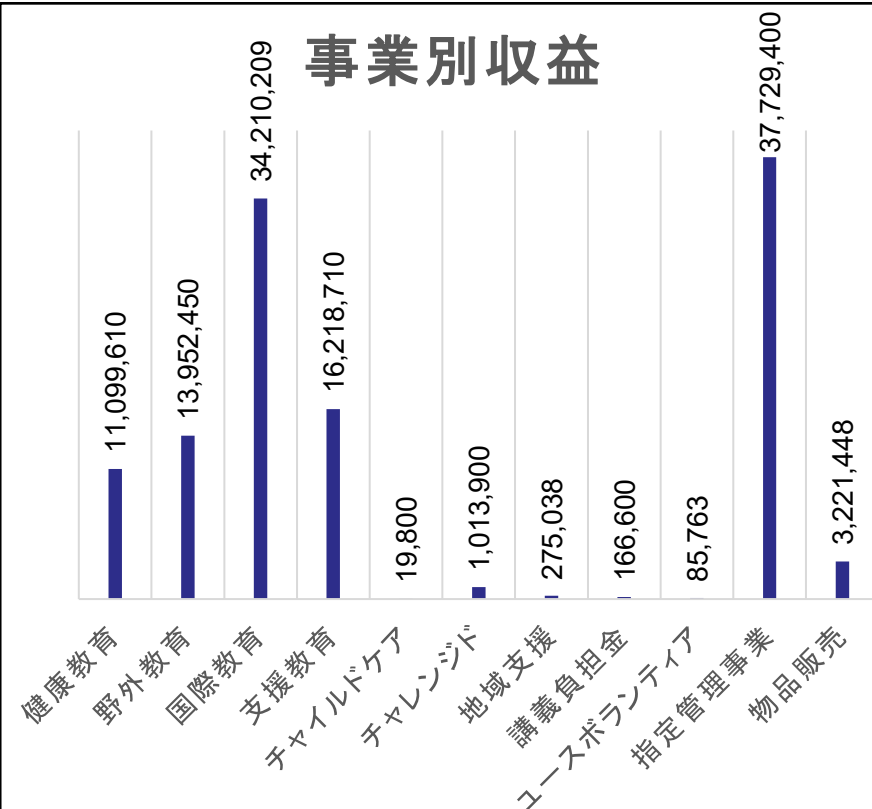
2024年度は、物価高騰や少子化の影響を受けつつも、多様な事業を展開しました。

全体収支は約34万円の赤字でしたが、YMCAの「運動性」を生かし、地域に根ざした取り組みが進展。高校生グループ〈つぼみ〉による子ども食堂・学習支援、新本館での親子の居場所「めいめい」や多文化交流拠点「みんなのいばしょ」などが充実しました。

健康・野外教育事業では体験を通じた学びを継続。国際教育事業ではフィリピン・スタディーツアー再開準備、青少年国際交流ICEPが充実しました。足利地域では放課後児童クラブの新拠点移転が叶い、チャレンジド事業は少人数ながら心の支援を継続、指定管理事業では「トライ東」の安定運営を維持しつつ、新指定管理事業の「まちぴあ」運営の準備を進めました。

人と人のつながりを大切に、「安心して過ごせる地域づくり」へ歩みを続けた一年でした。

事業別収益



収入

128,563,454

支出

128,905,749

収支差額

△342,295

事業報告

Business Report

学校法人 01

認定こども園さくらんぼ幼稚園

Sakuranbo kindergarten



認定こども園さくらんぼ幼稚園

Sakuranbo kindergarten

2023年度に創立70周年を迎え、2024年度は71年目をスタートしました。マスクの制限がなくなり、子どもたちも保育者も笑顔で過ごす一年となりました。

衛生習慣は引き続き身についており、健康的な生活を実践しています。春の遠足は八幡山公園へ徒歩で出かけ、夏の宿泊保育は「みかも自然の家」で実施しました。気温の高さに配慮しながら、室内外で安全に自然体験を楽しみました。

園行事と保護者活動

今後は、夏の暑さを考慮し、遠足や宿泊保育の時期を見直す予定です。

年長組のお別れ遠足では、ライトレールを貸し切り、かしの森公園でスタンプラリーを楽しみました。また、料理招待会を再開し、保護者と共に思い出を分かち合う時間を持ちました。

99名の年長児が県内外28校へ巣立ち、それぞれ新たな一步を踏み出しました。

保護者会では給食試食会を復活し、園の食育への理解を深めました。

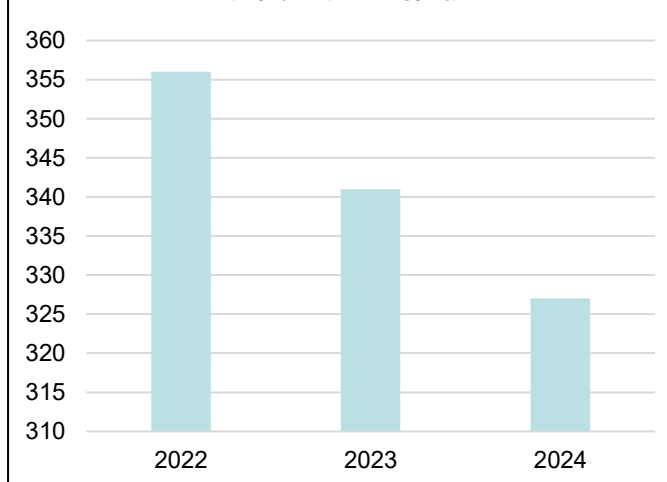
職員研修では「不適切保育」について話し合い、日々の保育を振り返る機会としました。



2024年度園児数

	2・3号	1号	計
0歳児	6	0	6
1歳児	20	0	20
2歳児	20	26	46
3歳児	39	36	75
4歳児	41	40	81
5歳児	47	52	99
合 計	173	154	327

年度別園児推移



事業報告

Business Report

学校法人 02

指定管業 子どもの家（Cブロック）

designated management of after school at block “C”



指定管業 子どもの家（Cブロック）

designated management of after school at block “C”

子どもの家Cブロックは、2024～2028年度の2期目指定を受け、1年目の運営を無事に終えました。

4年目となる2024年度は、保育活動の幅が広がり、これまでの経験から課題の整理と共有が進みました。

通常保育に加え、夏のプール、移動駄菓子屋、世界子どもの日、ピンクシャツデー、チャリティーランなど、地域と連携した多彩な活動を展開しました。

また、主任者会議の定期開催や研修機会の充実、ICTを活用した入退室管理と料金自動化を導入し、業務効率と支援員のスキル向上を図りました。

2024年11月から本部体制を見直し、統括管理者の交代や業務分担の再整理を行いました。人員配置の改善や支援員の確保に努めつつ、安定した運営体制を整えています。今後は人材育成や地域連携、社会資源の活用など、残された課題の解決に取り組めます。

2025年度は人員の安定確保と実践的な研究を通じて、「子どもまんなか社会」の実現を目指します。



子どもの家（Cブロック）7拠点一覧

戸祭子どもの家・とちのみ会

昭和小子どもの家・わんぱくくらぶ

桜子どもの家さくらクラブ

細谷子どもの家・アドベンチャークラブ

宝木子どもの家・チャイルドクラブ

西が岡子どもの家・どろんこ広場

上戸祭子どもの家・上戸クラブ



事業報告

Business Report

学校法人 決算状況報告

2024年度は、全体として堅実な運営を維持しつつ、園児数や人員配置の変化に柔軟に対応した一年でした。

さくらんぼ幼稚園（認定こども園）では、年間を通じて在園児が約20名減少する傾向が見られました。これに伴い、定員を現状に合わせて見直すとともに、1号認定児（教育標準時間認定）に対して2号認定児（保育認定）の増加という構成変化を踏まえた補助金申請を行い、安定的な運営に繋がりました。

認定こども園さくらんぼ幼稚園における教育活動収支差額は+4,750万円でした。Kの収益は教職員の処遇改善のための費用、園舎建て替えのための積み立てとしています。

子どもの家（Cブロック放課後児童クラブ）では、支援員配置に一時的な不足が生じたものの、さくらんぼ幼稚園や公益財団法人からの人員応援により、事業の継続性と安全性を確保できました。

法人全体では、教育・保育・地域支援が連携し、引き続き、子どもたちの健やかな成長と家庭・地域を支える教育福祉拠点としての役割を果たしてまいります。

事業別活動収支差額

認定こども園	47,529,017
さくらんぼ幼稚園	
子どもの家	12,487,506
Cブロック	

収入	561,873,491
支出	496,606,322
収支差額 （含む営業外費用各種税）	60,016,523

事業報告

Business Report

高齢部

elderly welfare

社会福祉法人 01



広域型 特別養護老人ホームマイホームきよはら
Special elderly nursing home “ My home Kiyohara”

地域密着型 特別養護老人ホームマイホームきよはら
Special elderly nursing home “ My home Kiyohara”

短期入所生活介護事業所ショートステイきよはら
Short-term residential care facility short stay “Kiyohara”

2024年度は、

- ①施設理念を実践し、積極的に行動すること、
- ②入居者・家族・職員の価値観を認め合い、共有することによる質の高いケアの実現を方針としました。

加算の取得や入院予防ケアの充実を通じて、安定した運営を目指しました。また、面会やカンファレンスを通じた意見交換で、価値観の共有と信頼関係の強化を図りました。

さらに、研修や教育システムの運用により、介護技術と知識の再確認を行い、安定したケア提供を推進しました。口腔ケア加算・自立支援促進加算を取得し、栄養マネジメント加算の導入を次年度に予定しています。

入所希望者の変動がある中で、地道な営業活動と入所調整を継続しています。

多職種カンファレンスは継続的に実施しており、今後はオンライン参加など効率的な方法も検討中です。人員不足や感染症対応などの課題は残るものの、チームリーダーを中心に意見をまとめ、できることから改善を進めています。

【地域密着型】

1日の平均利用者数と入居稼働率

項目	2023年度実績	2024年度計画	2024年度実績
密着（定員 29名）			
1日当たりの平均利用者数	28.7名	28.5名	27.4名
入居稼働率	98.9%	98.2%	94.5%

【広域・ショートステイ】

1日の平均利用者数と入居稼働率

項目	2023年度実績	2024年度計画	2024年度実績
広域（定員 60名）			
1日当たりの平均利用者数	58.9名	59.0名	56.5名
入居稼働率	98.2%	98.3%	94.2%
ショートステイ（定員4名＋特養の空床利用）			
1日当たりの平均利用者数	2.4名	3.5名	2.7名
特養・ショートステイ（定員 合計64名）			
1日当たりの平均利用者数	60.3名	62.5名	59.2名
入居稼働率	94.2%	97.6%	92.5%

事業報告

Business Report

高齢部

elderly welfare

社会福祉法人 01

通所介護事業所デイホームきよはら

2024年度は、地域に必要とされるデイサービスを目指し、困難事例にも対応できる体制づくりを進めました。

在宅生活を長く続けられる支援の提供を重視し、スタッフ育成と加算取得に取り組みました。他部署との連携や研修を通じて職員のスキルを高め、認知症ケアにも丁寧に対応しました。

今後は新規利用者獲得に向け、居宅への営業や情報発信を強化します。

項目	2023年度実績	2024年度計画	2024年度実績
1日当たりの平均利用者数 (定員40名)	22.5名	24.0名	19.3名

居宅介護支援事業所支援センターきよはら

多様な課題を抱える方々を支えるため、介護保険以外の制度理解を深め、多機関連携を強化しました。

緩和ケア連携カンファレンスやヤングケアラー・難病患者支援の研修に参加し、実践的なケアマネジメントを展開しました。

今後も質の向上と業務効率化を図り、安定した支援体制を整えていきます。

地域包括支援センター清原 ※委託

「住み慣れた地域で安心して暮らせる社会」を目指し、介護・福祉・保健を総合的に支援しました。

生活に困難を抱える相談にも関係機関と連携して迅速に対応することができました。

災害・感染症対策では、法人内でマニュアル共有を進め、BCP外部研修にも参加しました。地域包括ケアの中核として、地域の支え合い力の向上に努めました。

定期巡回随時対応型訪問介護看護
コミュニティケア・イースト

とちぎYMCA福祉会の主要事業として、地域に根ざした支援体制の強化を進めました。

人員配置の見直しや他部署との連携により、緊急対応を含む柔軟なサービス提供を実施。

利用者の急変時は、医療連携システムやアプリを活用して迅速に情報共有しました。

報酬単価の引き下げなどの課題に直面しながらも、利用者の生活を守る支援を継続しています。

項目	2023年度実績	2024年度計画	2024年度実績
1日当たりの平均登録利用者数	28.5名	31.0名	31.4
職員:利用者比	1:2.5	1:3	1:3
一月当たりの新規者数	2.8	3.0	3.0
平均介護度	2.6	3.0	3.0
会議開催 (コンサルテーション、推進会議含む)	1.0	1.0	0.0

事業報告

Business Report

社会福祉法人 02

ようとう保育園

Yoto nursery school

4月の新入园児は19名でスタートし、0歳児クラスは4名から緩やかに増加し、8月には定員を満たして全園児116名となりました。その後、転出による退所もあり、3月末時点では114名で年度を終えました。子どもの成長や発達に合わせた年間行事も、計画通りに安全に実施することができました。5月からは宇都宮市の試行的事業として「こども誰でも通園プレ事業(10時間預かり保育)」の受け入れを開始しました。登録者数は2月末時点で48名、3月末までの延べ利用人数は404名となりました。

利用者への支援として、あそびの提供だけでなく、子育て相談にも力を入れました。相談の多くは離乳食の進め方、アレルギー対応、食具の使い方や介助など食事に関する内容であり、園としても「食育の重要性」を改めて見直すきっかけとなりました。給食提供の場面では、保育士が様子を丁寧に伝えたり、保護者と共に体験を共有する工夫を行いました。

初回利用時には泣いて過ごす子どもも多く、保護者も不安を抱えていましたが、継続的な利用を通して子どもの成長を共有し、信頼関係が深まることで「安心して預けられる場所」として高い評価と感謝の言葉を多くいただきました。

この取り組みは、園として新しい制度の理解を深め、保育の質の向上にもつながりました。

保育部・子ども部

ようとう保育園
Yoto nursery school



園児数（クラス別：月単位）

クラス	年齢	定員	4月 新入	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
つくし	0歳	9	4	4	4	5	5	9	9	9	9	9	9	9	9
たんぽぽ	1歳	18	9	18	18	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18
つばめ	2歳	22	0	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
うぐいす	3歳	23	6	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23	22
ふじ	4歳	24	0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
さくら	5歳	24	0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
合計		120	19	111	111	113	112	116	116	115	115	115	115	115	114

事業報告

Business Report

社会福祉法人 03

保育部・子ども部

指定管業 子どもの家（Gブロック）

designated management of after school at block “G”



指定管業 子どもの家（Gブロック）

designated management of after school at block “G”

子どもの家Gブロックは、2024～2028年度の2期目指定を受け、1年目の運営を無事に終えました。4年目となる2024年度は、保育活動の幅が広がり、これまでの経験から課題を整理・共有することができました。

通常保育に加え、ICEP交流、南投YMCAとの国際交流、夏のプール活動や移動駄菓子屋、世界こどもの日、ピンクシャツデー、チャリティーランなど、地域や海外との連携による多彩な活動を実施しました。

また、主任者会議の定期開催や支援員研修、ICT導入による入退室管理の効率化を進め、運営体制の質を高めました。

運営体制と今後の課題

2024年11月から本部体制を見直し、統括管理者の交代や業務分担の再整理を実施しました。人員確保と安定した運営体制の構築を進めつつ、課題である人材育成・社会資源の活用・地域連携に引き続き取り組みます。

2025年度は、安定した運営と課題解決に向けた実践を重ね、「子どもまんなか社会」の実現をアフタースクールの視点から目指していきます。

各拠点利用者数

拠点	清原中央	清原南	清原東	瑞穂野北	瑞穂野南	瑞穂台	ゆいの杜	合計
2024 4月	104	122	101	39	21	128	221	736
2025 3月	98	106	91	36	20	117	193	661
クラス数	3	3	3	1	1	3	5	18

子どもの家（Gブロック）7拠点一覧

清原中央子どもの家・フレンズクラブ

清原南子どもの家・スマイルクラブ

清原東子どもの家・イーストクラブ

瑞穂野北子どもの家・瑞北めだかつ子クラブ

瑞穂野南子どもの家・みずほのぼくらクラブ

瑞穂台子どもの家・みず台クラブ

ゆいの杜子どもの家・クローバークラブ



事業報告

Business Report

社会福祉法人 04

子ども部

Child-care

委託事業

(親と子の居場所 めいめい)

child care and parenting support “MEIMEI”

YMCA EAST新館の開設に伴い、活動拠点を陽東地区へ移転しました。

子どもたちと共に居場所のルールを考え、安心して過ごせる環境づくりに努めました。季節行事(夏祭り・ハロウィン・クリスマス・初詣・豆まき)を実施し、栃木SCからの招待でサッカー観戦も行うなど、体験の幅を広げました。

保護者支援では、信頼関係が深まり、相談の機会が増加。行政とも連携し、必要な支援につなげました。

今後は、地域・団体・行政とのつながりをさらに強化していきます。



宇都宮市 親と子どもの居場所

めいめい



要支援児童健全育成事業/子どもの居場所 もうひとつの家 アットホームきよはら ※委託

Place where someone belong for children at Kiyohara

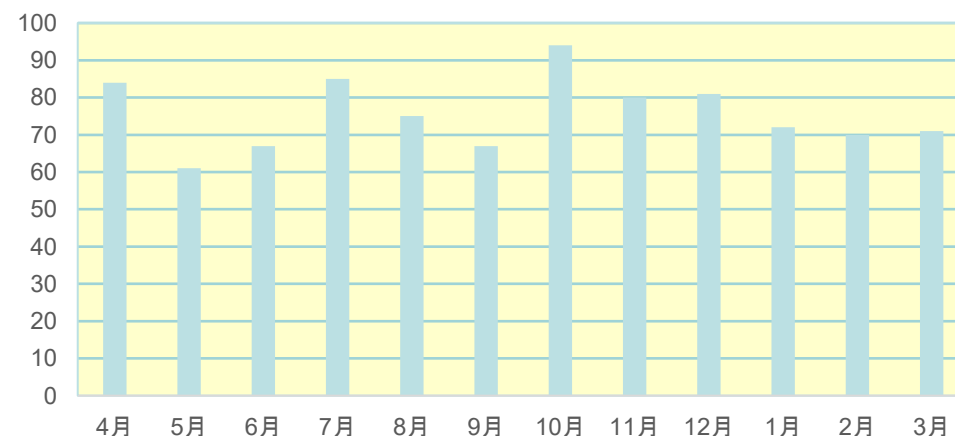
子どもたちが安心して過ごせるよう、食事・入浴・洗濯などの日常支援を行いました。一方で、個別の物品支援や情緒面への対応には課題が残り、行政と連携しながら丁寧に対応を進めています。

「月の家」との合同運動会やクリスマス会を通じて、交流と成長の機会を広げました。

保護者支援では、送迎時以外の関わりが少なく、家庭の状況把握が難しい面もあります。

今後は保護者とのコミュニケーションを強化し、家庭と連携した支援を目指します。

登録数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
12	0	0	1	0	0	4	3	3	1



事業報告

Business Report

社会福祉法人 決算状況報告

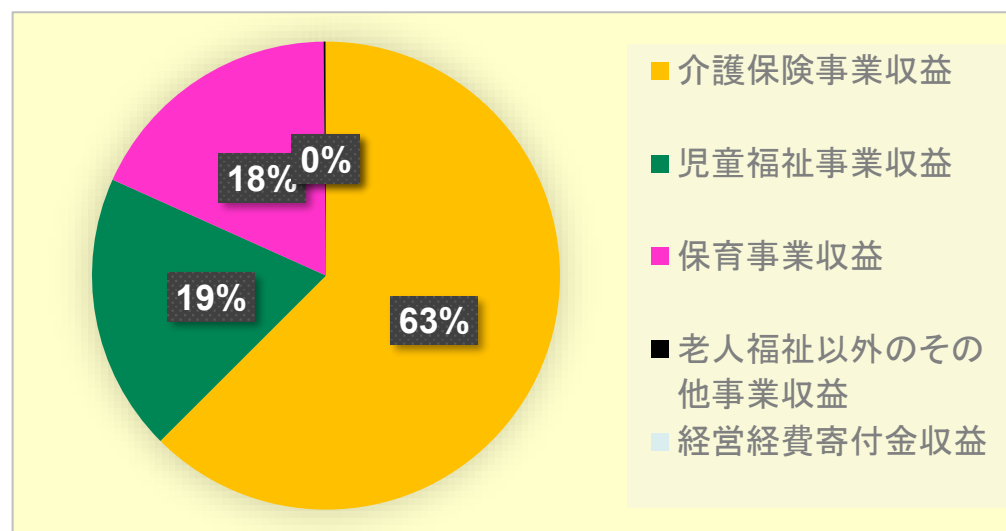
2024年度は、高齢者福祉（介護保険事業）に加え、保育園や放課後児童クラブ、要支援児童事業、居場所運営など、多角的な福祉活動を展開しました。福祉のニーズがますます多様で複雑になる中、私たちは個への支援（点）と地域づくり（面）の両方から関われる重層的なサポート体制を進めてまいりました。

一方で、人手不足や物価高騰など厳しい経営環境が続き、高齢者福祉事業ではマイナス4%の赤字となりました。それでも、保育園や居場所、放課後児童クラブが平均プラス9%と安定し、法人全体で収益率0.7%の黒字で決算できました。

こうして事業全体のバランスを保ちながら、地域に根ざしたYMCAの福祉活動を続けることができました。

来年度は、処遇改善、IT・ロボット導入など働きやすさを高め、スタッフ一人ひとりが誇りを持てる福祉のかたちをさらに広げてまいります。

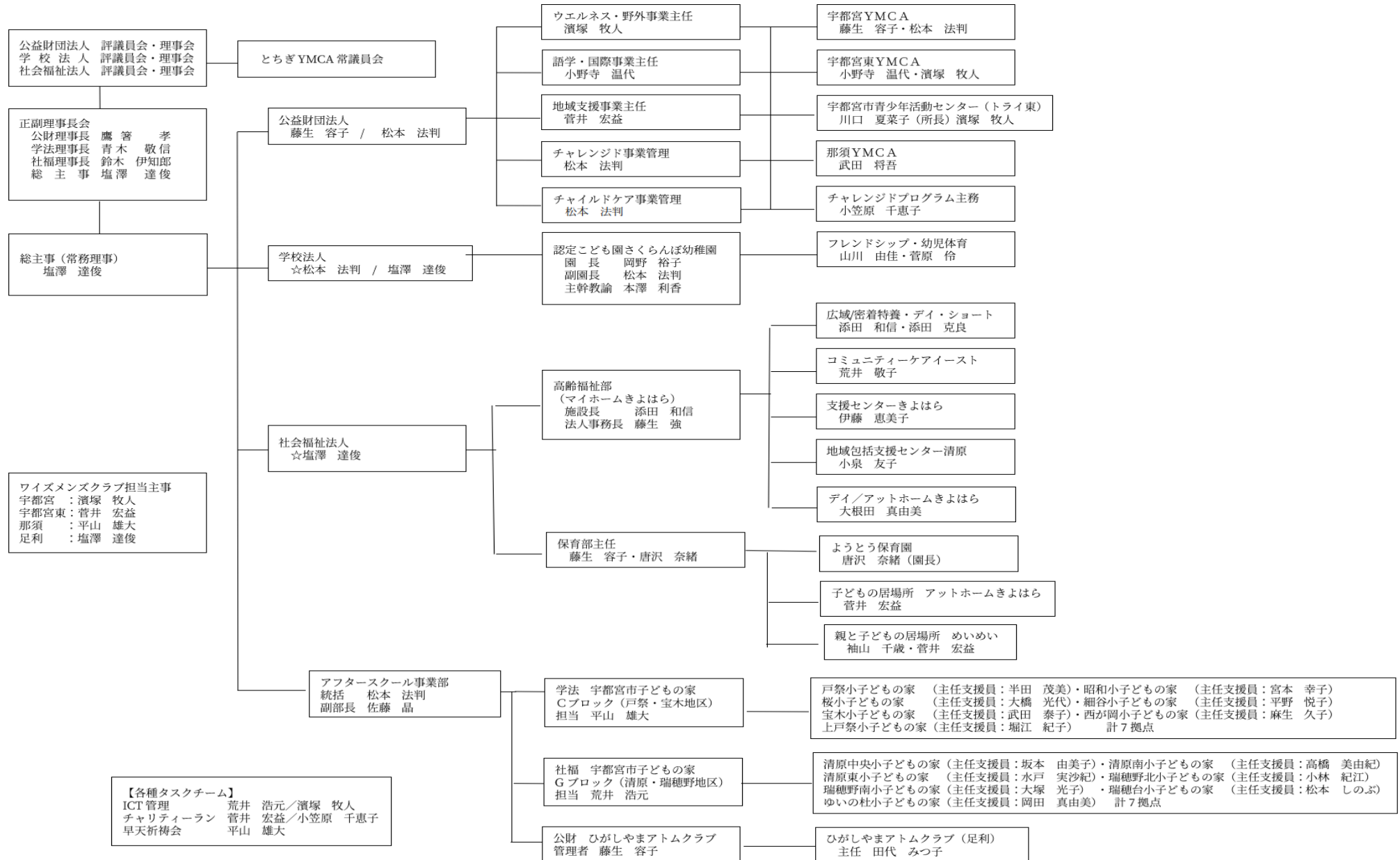
事業別収益



事業別収益	
介護保険事業収益	627,876,952
児童福祉事業収益	192,958,942
保育事業収益	181,902,365
老人福祉以外のその他事業収益	1,505,000
経営経費寄付金収益	170,000
収入	1,004,413,259
支出	1,000,410,566
収支差額	4,002,693

2024年度組織体制

Organization Structure



とちぎYMCA役員・委員報告 (順不同、敬称略)

Board and Committee Members

公益財団法人とちぎYMCA

【理事】岡田孝司 久保孝弘 中川哲夫 山田公平 塩澤達俊

【監事】大久保知宏 長谷範子

【評議員】青木敬信 阿久津知志 伊藤貴子 上野順一郎 岡野裕子 河野順子 菅谷淳
鷹箸 孝 田村修也 塚本貴大 中村俊幸 南部利行 安井武雄 矢部真人

学校法人宇都宮YMCA学園

【理事】青木敬信 大久保知宏 長谷範子 寺内裕美 岡野裕子 塩澤達俊

【監事】岡田孝司 井口美代子

【評議員】井上智美 上野順一郎 金田敏雄 久家康雄 熊本泰久 里村美奈 千嶋 巖
長尾宏美 波多野伸 毛利杏子 森理恵子 松本法判

社会福祉法人とちぎYMCAとちぎ福祉会

【理事】鈴木伊知郎 上野順一郎 大久保知宏 金澤林子 古山滋美 中村俊幸

七井千恵子 藤田昭子 山田公平 塩澤達俊

【監事】石飛雅代 鷹箸孝

【評議員】今井美静 薄久保博子 金田美穂 川田浩也 菊池孝治 齋藤康通 齋藤要士
高橋義男 南部利行 山口俊一 山口佳子



みつかる。つながる。よくなっていく。